

自己点検・自己評価

日本語教育機関名：成田中央日本語学院

設置代表者：株式会社京櫻

代表取締役 楊 尚勇

実施時期：年度末

実施担当：経営担当役員、校長、教務主任、事務長及び本務等教職員

実施方法：点検・評価会議による

公表方法：当校のホームページ(<http://jpwind.jp>)に掲示

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育理念・目的等 (担当：校長)

評価

- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか | 5 |
| 2 | 1-2 学校の特色を理解しているか | 5 |
| 3 | 1-3 学校の将来構想を抱いているか | 5 |
| 4 | 1-4 理念に基づく教育が行われているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

【理念】質の高い日本語教育により、日本語力を高め、日本において進学・就職できる力をつけさせる。また日本への理解を図り、日本と諸外国の交流および経済発展に寄与する。

【目標】1. 大学院・大学・専門学校等への進学率、就職率100%を目指す。2. 進学・就職のための日本語教育に留まらず、日本での生活に役立つ実用的な日本語を教授する。3. 日本での留学生生活を通じて、文化・習慣等の違いを認識させ、国際的な広い視野を持つ有能な人材の育成を目指す。

〈現状・具体的な取り組み〉授業は『できること』を意識させて会話を中心に言い、日本語でのコミュニケーション力強化に重点をおいて行っている。

文化祭では、「自国の文化の紹介」と「日本語学習の成果の発表」を二本柱として、展示・ステージ発表を行っている。昨年度に引き続き、地域の企業で働く外国人就労者の方々にもご参加いただき、地域住民の方々をお招きして開催し、地域連携・異文化交流の場とすることができた。

進路においても、地元成田の企業や学校、成田市とも連携し、丁寧な個人面談を経て、おおむね各学生の希望する進路に進むことができた。

〈課題〉1年次より日本語の学習とともに計画的にキャリア教育を行い、早めに進路を考える機会を作り、卒業後の進路を見据えた留学生活が送れるよう、支援体制を整備していきたい。

学校の将来構想については、認定校に向け、今後十分な話し合いの機会を設け、全職員が共通理解をしたうえで、一丸となって取り組み、学生も教職員も生き生きと過ごせ、それぞれの目標や夢が達成できる学校を目指していきたい。

2. 学校運営 (担当：校長)

評価

- | | | |
|----|---|---|
| 5 | 2-1 学校の理念・目的の達成に沿って運営方針が定められているか | 5 |
| 6 | 2-2 学校の理念・目的の達成に沿って事業計画が定められているか | 5 |
| 7 | 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか | 4 |
| 8 | 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか | 4 |
| 9 | 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 5 |
| 10 | 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか | 3 |
| 11 | 2-7 危機管理体制は整備されているか | 4 |
| 12 | 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか | 4 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉定期的に全体会議のほか、管理職会議や部門別会議を行い、組織運営や意思決定が行われている。常に情報共有、情報公開をし、風通しのよい職場作りを行っている。
人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関しては、教職員面談や教職員アンケートを行い、適正な処遇と環境改善に努めている。
昨年度から学生管理システムを導入し、事務・教務ともに、学生管理業務が格段に効率化した。職員間の連絡ツールとしてはLINEWORKSを利用し、その他GoogleやDropbox、Boxといったクラウドサービスを活用して、業務の効率化を図っている。
施設・設備は電子黒板の導入・活用により、授業の活性化を図っている。校舎に関しては、常に点検・メンテナンスを行い、安全および快適な学習環境を追求している。
〈課題〉人事評価や賃金制度に関して、今後はさらに専門家とも相談の上、透明化を図っていきたい。学校運営の客観的評価制度については、現在検討中である。早期に導入したい。
危機管理に関しては、随時避難訓練や防災教育を行っている。学校の危機管理マニュアルを作成するため、まず教職員の緊急連絡先を把握し、危険等が発生した際に教職員が円滑かつ的確な対応ができるよう、整備していきたい。

3.教職員（担当：校長）

評価

- | | | |
|----|--------------------------------|---|
| 13 | 3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか | 5 |
| 14 | 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか | 5 |
| 15 | 3-3 教職員評価を行っているか | 3 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉全教職員に「学校目標」を配布し、教育理念、教育目標、目標達成のための具体策および求められる教師像を提示し、共有している。
定期的に主任および専任教員が授業見学を行い、授業改善のためのアドバイスを行っている。経験の浅い教員に関しては、主任や専任の授業を見学してもらい、授業改善に役立ててもらっている。また、長期休暇や教師会を利用して、年数回教員研修を行い、授業の進め方の確認や参照枠の理解を促し、教育の質を向上させる取り組みを行っている。
各教員に年2回「個人目標・評価（振り返り）シート」を記入、提出してもらい、それをもとに理事長、校長、主任等の個人面談を行っている。
〈課題〉教員評価は、自己評価（個人目標・評価シート）のほか、授業見学と個人面談にて行っているが、学校の評価項目が明確になっていないため、現在評価制度を作成している。
教員Can doチェックリストが完成したので、今年度から年1回、自己評価に使用してもらう予定である。事務職員については今のところ理事長および校長の個人面談のみであるが、今後は事務用に個人目標シートやCan doチェックリストを作成していく予定である。

4. 教育活動（担当：教務主任）

評価

- | | | |
|----|--|---|
| 16 | 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか | 5 |
| 17 | 4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 18 | 4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保してるか | 5 |
| 19 | 4-4 成績評価、進級判定、修了判定は適切に行われているか | 5 |
| 20 | 4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導體制は整っているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉コミュニケーション力を重視し、知識獲得だけでなく、プレゼン、スピーチ等の多様な活動を盛り込んだ日本語教育を実施している。なめらかな会話ができるよう、授業ではロールプレイ、シャドーイング等を積極的に取り入れた授業内容となっている。また、日本文化や異文化の理解にも配慮したカリキュラムとなっている。

授業評価は、学生アンケートおよび教員アンケート、および学生個人面談、教員個人面談に基づいて行われている。教師会やクラスミーティングにおいても、授業内容について教師間で常に検討・改善を重ねている。

教員は採用時に、書面により資格を確認し、面接と15分の模擬授業を行って、資質能力を十分確認した上で採用している。採用後も、初任者研修、教員全体の授業研修への参加を義務付け、教案提出や授業見学により、質の維持を図っている。

成績評価は、到達度を測る単元ごとのペーパーテストのみならず、学期末にはループリック評価を用いて行う会話やスピーチ、作文のパフォーマンステスト、熟達度テストも実施して、多角的に評価している。進級判定はクラス担任を中心にクラス担当教員の会議を経て専任会議で決定し、修了判定は専任教員および校長による卒業判定会議にて決定している。

各種日本語試験の情報は定期的に学生に知らせ、特にEJUとJLPTについては学生の要望をもとに、授業時間外に対策授業を実施して、認定率向上を目指している。

〈課題〉授業内容、評価基準の学生への周知を今年度より始めたが、今後さらに体制を整えて、きめ細かく対応していきたい。

授業評価の実施・評価体制については、今後さらに客観的な評価ができる体制を整備していきたい。

5. 学生支援（担当：生活指導担当者）

評価

21	5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4
22	5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
23	5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	5
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉進学指導に関しては、学校としても経験実績があり、スムーズに行えているが、就職指導に関してはまだ体制が整っておらず、改善の余地がある。

学生相談については、担任制であるため、原則相談窓口はまず担任とし、常に親身な相談ができるよう心掛けている。また外部通訳を利用する等、母国語でも常時対応可能な体制を整えている。

校内保健室に常備薬や体温計、検査キットを備え、急な体調不良にも対応できるようにしている。また、事故等の際には母語が通じる事務職員が現場に駆け付け、また事務職員が警察や保険会社との対応窓口となっている。病気や怪我の際には、症状に応じて、教職員が付き添ったり、送迎を行ったりしている。

学生寮は家具家電がすべて揃った学習環境に適した部屋を用意し、通学のための自転車も希望者全員に無料貸与、または購入補助金を支給した。寮生活の指導を徹底して行い、月に一度教職員が全部屋の見回り点検を実施している。

保護者との連絡は、学生本人に確認したうえで、必要に応じて事務職員が行っている。母語対応が難しい場合は、仲介会社のスタッフを通じて保護者と連絡を取り合い、学生も保護者も安心できるサポート体制が作られている。

卒業生とは、卒業後もメッセージのやり取りをする等のコミュニケーションを取っている。文化祭や卒業パーティー等の学校行事に招待したり、進路やビザに関する相談等、卒業後もできる限りの支援・交流を続けている。

〈課題〉就職指導に関しては、特定技能1号での就職希望者に対する支援体制の確立、支援計画の策定・実施をすべく、取り組みを行っている。

6. 在留管理と生活指導（担当：出入国在留管理事務担当者・生活指導担当者）

評価

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 27 | 6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか | 5 |
| 28 | 6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか | 4 |
| 29 | 6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか | 5 |
| 30 | 6-4 常に最新の学生情報を把握しているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉入管法をはじめとする法令順守の指導は順調に行えている。その結果として、適正校である旨を東京出入国在留管理局から受け取れており、2025年10月には「適正校（クラス1）」である旨の通知を受けた。

日本社会の理解を深めるための支援については、入学時のオリエンテーションに限らず、日常的に日本の法令やマナー、文化的な価値観や風習等についての指導を行っている。

また、学生の情報把握に関しては、学生個人票を作成し、毎月連絡先やアルバイト状況の確認・更新を行っている。3か月に一度の定期面談に加え、必要に応じて不定期面談を実施し、個々の状況に応じた対応に努めている。さらに、専任会議や部門別会議といった定例会議、ならびに日々の打ち合わせを通じて、教職員間で学生の情報を適切に共有し、組織全体としての支援体制の強化を図っている。

〈課題〉文化的な違いについて知識としては理解しているものの、実際の生活の中で十分に適応することが難しい場面も見受けられるため、まだ課題が残ると考え「4」にした。

7. 学生の募集と受け入れ（担当：経営担当役員・出入国在留管理担当者）

評価

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 31 | 7-1 学生の受入方針は定められているか | 5 |
| 32 | 7-2 学生募集活動は、適正に行われているか | 5 |
| 33 | 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 5 |
| 34 | 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか | 5 |
| 35 | 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉入学選考は、教育理念に基づき、日本語の学習目的、学習歴、学歴、経費支弁能力に問題のない学生を選抜し、提出書類は適正かつ公平に審査している。

学生募集は、中国（重慶）およびベトナム（ホーチミン）の現地事務所が担い、提携大学・高校および信頼できる紹介機関と連携し、適正に実施している。

パンフレットやホームページには、学生の学習状況や進学実績を正確に掲載し、保護者への報告にも活用している。

定員は関連規定に基づいて適切に設定されており、在籍者数もその範囲内で管理されている。

8. 財務（担当：経営担当役員）

評価

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 36 | 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 5 |
| 37 | 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 38 | 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか | 3 |
| 39 | 8-4 留学生紹介機関への仲介手数料は適正なものとなっているか | 5 |
| 40 | 8-5 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉当年度においては、学生募集時期を学則及び教育課程に適合させるため、募集計画の見直しを行った結果、年間の学生在籍者数が約100名程度となり、当初計画を下回る学生数での運営となった。そのため、学納金収入が想定を下回り、学校単体の収支は赤字となった。

また、近年の物価上昇や人材確保の必要性を踏まえ、教職員の処遇改善を積極的に実施したことにより、人件費等の運営経費が増加し、財務状況に一定の影響を与えた。しかしながら、本校は運営会社による安定した経営基盤を有しており、他事業からの収益を活用して必要な運営資金を補填したため、教育活動、学生支援、施設設備の維持管理等に支障を生じることなく、安定した学校運営を継続することができた。

次年度（2026年度）については、募集計画の正常化に伴い、定員規模に近い学生募集が見込まれていることから、学校単体で収支均衡を達成できる見通しである。また、教育の質向上及び優秀な人材の確保を目的として、引き続き教職員の待遇改善を進めるとともに、奨学金制度、生活相談、進学・就職支援等の学生支援体制についても安定的に実施できる財務基盤を確保している。

今後も適正な財務管理に努め、健全かつ持続可能な学校運営を通じて、教育の質向上及び学生サービスの充実を図っていく。

9. 法令等の遵守（担当：校長）

評価

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 41 | 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 5 |
| 42 | 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 43 | 9-3 自己点検・自己評価の実施と、問題点の改善に努めているか | 5 |
| 44 | 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか | 5 |
| 45 | 9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉法令、設置基準に関しては、常に最新のものを確認し、適合しているかの確認を行っている。

自己点検・自己評価は、毎年決められた手順で実施し、全職員が問題を把握したうえで、さらなる改善に取り組んでいる。実施結果は、毎年ホームページにて公開している。

関係省庁への定期報告は、チェック体制を作り、遅延なく実施できている。

〈課題〉個人情報保護の対策は取っているが、今後はさらに専門家の視点を入れて体制を整え、専門家による職員研修等も実施していきたい。

10. 社会貢献（担当：校長）

評価

- | | | |
|----|---------------------------------|---|
| 46 | 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 4 |
| 47 | 10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか | 5 |

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

〈現状・具体的な取り組み〉年2回地域の美化のために、ゴミ拾いのボランティアを行っている。実施の際は町内会の方々へ声掛けをして、住民との連携を図りながら実施している。今年度からは地域の美化活動に学校として参加することにした。

また、毎年夏に行われる「成田祇園祭」では有志の学生を募って参加していたが、今年度から学校行事として全校生徒で「東町」の方々と一緒に山車を引くことにした。人手不足が深刻な地元町内会には大変歓迎されており、学生たちも地域住民との交流ができ、地域を支える一住民との自覚が芽生えることから、継続していきたい。

〈課題〉2022年度は予備室を利用し、「生活会話クラス」を開講し、近隣に住む外国人の方々へ日本語の授業を行っていたが、近年は教室および講師に余裕がなく、実施できていない。環境が整い次第、再度実施したい。

〈総括〉

今年度は、定期的に部門別会議、職員会議を実施するほか、ビジネスコミュニケーションツール等も有効活用し、職員間の情報発信・共有に努めてきた。クラウドサービスや学生管理システムの導入のより、業務を効率化するとともに、より正確に遂行できる体制を整えた。

授業においては、参照枠を踏まえたコミュニケーションを重視する授業や評価を行うとともに、日本での生活および就労が円滑に行えるような学びの機会も設けることができた。また、多文化共生社会を意識した異文化理解を促す取り組みも行った。

法令、設置基準、学則等で定められているところ、および目標とするところは、概ね実施できているが、今後も引き続き、見直しや改善を図っていきたい。

今年度の課題を総括すると以下のとおりである。

キャリア教育の計画策定、人事評価体制の確立、危機管理マニュアルの作成等、現在の取り組みをしっかりと文書化し、全教職員に周知の上、確実に実行していくことが来年度の課題として挙げられる。